

**【令和元年度第1回埼玉県小学生女子柔道交流親善大会
兼女子柔道振興委員会大会運営・審判スキルアップ研修】**

実施報告書

開催日時	2019年12月7日(土)
開催場所	埼玉県立武道館 第一道場
参加人数	小学生女子 204人+その他 52人=256人 (女子柔道振興委員会 16・COMEBACK 派遣参加者 36)

令和元年12月7日(土)、埼玉県立武道館において、【令和元年度第1回埼玉県小学生女子柔道交流親善大会兼女子柔道振興委員会大会運営・審判スキルアップ研修】を行いましたのでご報告させていただきます。

本大会は、小学生女子柔道選手同士の交流と親睦を深め、女子柔道の普及・発展、振興に寄与するとともに、この大会を本委員会の実践研修とし、大会運営や審判技術の向上を図るというのを、目的として行われました。埼玉県、埼玉県教育委員会、(公財)埼玉県スポーツ協会、(公社)埼玉県柔道整復師会、埼玉新聞社からの後援をいただきながら、埼玉県女子柔道振興委員会20名を中心に、埼玉県内・外から小学生女子のみ約200名を超える参加がありました。

1、準備

9月8日(日) 第1回女子柔道振興委員会 於：埼玉県スポーツ総合センター会議室
・大会打ち合わせ、役割分担等

11月9日(土)・大会組み合わせ抽選会 於：埼玉県立武道館

12月6日(金)・前日準備 於：埼玉県立武道館

12月7日(土)・当日



2、当日の流れ

①開会式

選手宣誓は、川口柔連の廣瀬りお選手がおこない、ハキハキと大きな声で力強く宣誓できました。来賓の先生方から、たくさんの激励のお言葉をいただき、他の大会とはあきらかに違った雰囲気、和やかに開会されました。



②講演(講師：上原優香(旧姓：西田)先生)

上原先生から、女子小学生に向けて、ご自身の世界選手権で優勝した経験を踏まえながら、今後の柔道に対する心構えなどをお話いただきました。「みんな色々な人から支えられている、応援される選手になって欲しい、応援してくれる人の存在はとても大きな選手の力になる。」というお話がありました。また、「柔道を通しての考え方は人生の財産になる。」

「自分は自分にしかできない。自分にしかない強みを持ってほしい。」という、とても前向きになれるお話を頂きました。さらに、選手生活を終え、指導者・結婚・出産を経験し、人生観・価値観が180度変わったこと上げ、「自分の正解が相手の正解ではないということを強く感じている。」というお話もあり、指導者や保護者は共感、そしてこれから柔道指導者の道を目



指す大学生にとっても女性の生き方、働き方を考える良いきっかけとなる講演となりました。

③女子団体試合



(試合前のアップの様子)



(学年順・体重順で並ぶ団体戦)



(女性審判員も活躍、試合中風景)

【試合形式】

- ・ 埼玉女子柔道振興委員によるチーム編成（異年齢によるチーム（6人制））
- ・ 技名でのチーム分け（全34チーム）
- ・ 各試合場ごとに優勝チームを決める
- ・ 審判1審制（審判の服装は柔道衣で統一、インカムを装着）

※柔道着での審判は、審判服をまだお持ちでない女性審判員もいた為。

女子柔道振興委員が、全参加者を11月9日（土）に各チームを、子供たちが分かりやすいように、『せおいなげチーム』『うちまたチーム』などの技名で振り分けをしました。また、各チームに“チームコーディネーター”と名付けられた女子学生（淑徳大学、埼玉大学、平成国際大学）を1名配置し、朝のアップ時から小学生にアドバイスをしてもらいました。帯の結び方、応援の仕方など、柔道の技ではなく、柔道や試合に対する心構えや姿勢も教えている姿が見られました。安全面を考慮し、首のストレッチを入念に行ってから、試合が始まりました。最初の方は応援の声も小さかったけれど、大学生の声掛けもあり、少しずつ緊張はほぐれ、最後にはみんなで応援する雰囲気になっていました。礼の時に、先頭から学年順に並ぶ姿は、とても微笑ましい光景でした。審判は一審制、副審はインカムをつけての試合で、男性の審判の先生にもお手伝いを頂きながら行うことができました。初めて一審制を体験した先生方も多く、とても良い経験になったという感想もいただきました。



(礼法もしっかり行いました)



(大学生からアドバイス)



(絆が深まった試合後)

④表彰式



(表彰トロフィー)



(表彰風景)



(フォトセッションコーナー)

- ・各チームから1名（計34名）、試合場ごとに表彰【賞状・トロフィー】
- ・試合場ごとの優勝チームの表彰【賞状（個人用）（チーム用）・トロフィー】

優勝チーム、そして各チーム1名の最優秀選手賞を、チームコーディネーターの女子大学生から選出してもらい表彰を行いました。選考基準は、「1日通じて印象に残った選手」とし、勝利した選手だけでなく、応援や小さいながら大健闘した選手など、それぞれ思い思いの選手を選んでいる様子でした。表彰後、女子柔道振興委員が協力して作成した、フォトセッションコーナーにて、写真撮影をおこないました。大きなトロフィーを持って写真を撮った子どもの笑顔は、とても明るく満足しているようでした。

⑤合同稽古（乱取り・レク）



（大学生との乱取り風景）



（レクの風景）



（全員で記念撮影）

- ・大学生との乱取り
- ・先生との乱取り（委員会メンバー・COMEBACK ママさん柔道家・審判員からも参加）
- ・上原先生のサインを掛けたレク（バランスボール風呂敷リレー）

午前中にお世話になった大学生との乱取りをする選手の姿は、とても晴れやかなものでした。大学生の基立ちにあたりに行く目はとてもキラキラと輝いていました。レクでも、上原先生のサイン3枚を掛けて、5人1チームとなり、風呂敷を持って、その上にバランスボールを乗せて走るリレーを行いました。どのチームも笑顔ははじけていました。

3、全体を通して

第1回で色々と改善点は出たものの、大成功で終えることができたと感じています。今回の大会を終えて、優勝チームの1つ、『けさがためチーム』にインタビューをしたところ、「とても楽しかった。技で投げられたのが嬉しかった。」という感想があげられました。優勝の要因としては「みんなで諦めないで応援しあったこと。」と語り、「またこういう大会があったら絶対に出たいです。」とはじける笑顔で話してくれました。また、女子選手の交流だけでなく、来ていた親御さんでの会話も多かったようで、保護者同士の交流も図れていたようでした。本来の目的である女子柔道の普及・発展、振興に大きく近づくことができたのではないかと思います。

最後に、このような報告の機会を作って下さった全日本柔道連盟女子柔道振興委員会のみな様に感謝を申し上げ、実施報告書といたします。

埼玉県柔道連盟女子柔道振興委員会を
今後ともどうぞよろしくお願い致します。



（最後に第1回記念撮影）